

2023.06.11.「一体となる パート2」Mac 牧師

主よ、お父様、私たちは再びあなたの御前に来ます。あなたは私たちの救世主、救い主であります。私たちの人生にいつもいて下さり感謝します。主よ、あなたに私たちの心とをいつも集中させてください。今、世で起きているを見ると、まもなく家に帰れることが楽しみになります。ありがとうございます。イエスの御名を褒めたたえます。アーメン。

アーメン。アーメン。ご着席ください。主を褒め称えます。皆さん全員に、おはようございます。おはようございます。(会衆) J.D.ファラグ牧師の代わりとして、この日曜の朝、カルバリーチャペル、カネオへによろこそ。オンラインでライブ配信に参加の皆さん、市外から来てくださっている皆さん、J.D.牧師は、本当にここで皆さんにお会いしたかったです。何かさせていただけたらと、第一礼拝で話しましたが、第二礼拝後、J.D.牧師の家で、バーベキューパーティをします。—爆笑—

いえ、J.D.は知らないかもしれませんが、大丈夫でしょう。—(笑)— みんなで押しかけ、そうしようかな〜っと。どうです？ —(笑)— ほんの冗談です。—(笑)— 彼の家に行ったら、まずいことになりますね。ええ、しかし彼は.... (市外から) の方、あなたがどこから来て下さったか、あなたの情報をいただけたら、J.D.牧師に伝え、電子的でしょうけど、何らかの方法で、連絡できるかもしれません。J.D.牧師は、市外から来て下さった方やこの神の教会に来られる皆さんにいつもお会いしたいと思っています。私たちはあなたが来てくださって感謝します。J.D.牧師の不在中、ここで受けとる愛と今朝のメッセージで、あなたが本当に祝福されることを祈ります。次回の祈り会は、8月1日ここ礼拝堂で、夜7時からです。留意ください。7月(の祈り会)は休みです。今年は7月4日が火曜日だからです。ハワイでは7月4日(米国独立記念日)は、この世のものとは思えません。特に、ここカネオへでは、狂気です。バグダッド、イラク、ベトナム、第二次世界大戦、広島、7月4日のここハワイはそれ以上です。彼等がどこから(花火を)手に入れてくるのかもわかりません。—(笑)— これは軍用レベルですよ。—(笑)— でも、周知の通り、実際そういう事なので、祈り会は(7月4日に)ありません。それは、8月1日まで祈らないという意味ではありません。—(笑)—

私たちは毎日、祈るべきです。特に、私たちが生きているこの暗く歪んだ世においては。

それでは! 日曜日、私たちは2つの礼拝があります。これは第二礼拝です。今朝の第二礼拝は、有名な「エペソ人への手紙」5章22節から章の終わりまで学びます。可能な方は、読むのにご起立ください。長いですが、今朝の聖書箇所を読み、それから祈ります。再度「エペソ人への手紙5章」22節から、神の御言葉をお読みします。

— エペソ 5 : 22 —

妻たちよ。主に従うように、自分の夫に従いなさい。

— エペソ 5 : 23 —

キリストが教会のかしらであり、ご自分がそのからだの救い主であるように、夫は妻のかしらなのです。

— エペソ 5 : 24 —

教会がキリストに従うように、妻もすべてにおいて夫に従いなさい。

— エペソ 5 : 25 —

夫たちよ。キリストが教会を愛し、教会のためにご自分を献げられたように、あなたがたも妻を愛しなさい。

— エペソ 5 : 26 —

キリストがそうされたのは、みことばにより、水の洗いをもち、教会をきよめて聖なるものとするためであり、

ー エペソ 5：27 ー

ご自分で、しみや、しわや、そのようなものが何一つない、聖なるもの、傷のないものとなった栄光の教会を、ご自分の前に立たせるためです。

ー エペソ 5：28 ー

同様に夫たちも、自分の妻を自分のからだのように愛さなければなりません。自分の妻を愛する人は自分自身を愛しているのです。

ー エペソ 5：29 ー

いまだかつて自分の身を憎んだ人はいません。むしろ、それを養い育てます。キリストも教会に対してそのようになさるのです。

ー エペソ 5：30 ー

私たちはキリストのからだの部分だからです。(キリストの肉であり骨である)

ー エペソ 5：31 ー

「それゆえ、男は父と母を離れ、その妻と結ばれ、ふたりは一体となるのである。」

ー エペソ 5：32 ー

この奥義は偉大です。私は、キリストと教会を指して言っているのです。

ー エペソ 5：33 ー

それはそれとして、あなたがたもそれぞれ、自分の妻を自分と同じように愛しなさい。妻もまた、自分の夫を敬いなさい。

それでは、一緒に祈りましょう。 私たちにそれが必要だからです。天のお父様、主よ、今朝、私たちのために用意されていることに感謝します。私たちはこのメッセージが大変必要です。私たち全員がそれを心に刻み、そこから取り入れ、留意し、それによって生きることを祈ります。その適用は大変重要で、あなたの御言葉の良き管理人となるよう、これを正しく理解する必要があります。ですから、主よ、私たちに大胆にお語りください。私たち一人一人に触れてください。あなたの御言葉によって、触れられ動かされる必要があります。私たちはあなたを愛しています。あなたの御力のパワーと強さで私たちの前を行ってくださいますように。救世主イエスの力強い御名によって祈ります。アーメン。アーメン、そうでもありますように。どうぞご着席ください。これは、説教タイトルは、「一体となる」のパート2です。基本的に、第一礼拝の続きです。夫として私たちが家庭で霊的なリーダーになることがいかに重要かを話したからです。この話が、ここ「エペソ人への手紙」の朗読箇所へと私たちを誘導することになります。しかし私が明確にしておきたいのは、霊的リーダーとは、牧師やいわゆる神の御言葉の教師である必要はありません。私は、何も知らないうちは、今は知っているかのように言いますが、キリストは十字架で死なれた。私には、家庭内で、男性がリードすべきだという感覚がありました。それはあくまでも私が見たものが元で、教えられたものではありません。ですから、男は家庭で導くべきだというその基本的な理解が、少なくとも、私が主を探し求め始めた時の原動力でした。ですから、私が主を求め始めたとき、家族を教会に連れていく責任も感じました。彼らを教会へ導くことが。祈りに関しては、祈り方を知らない私ですら、祈りをリードしなければならないと感じました。その内のいくつかは、大変短いものでした。「主よ、私の必要をご存知ですね。 イエスを褒め讃えます。イエスの御名によって。」でも、そう

掻き立てられました。そして、日々やるべき導きを得るため、主は私を後押ししてくださり、御言葉によって生きる方法を示し始められました。私はとても感謝しています。その間、主が私の歩みを命じられるのがわかったからです。主は今も続けて下さっています。自分が成熟した霊的レベルに達したと思ったら大間違いです。違います。命じられたステップも、私は常に従っているわけではありません。でも、従わない時はとても苦しいです。(会衆：アーメン)

心が痛みます。痛むべきです。主は愛するものを訓練する。(ヘブル12：6参照)

私たちがまっすぐ正しく飛べるよう、主は私たちの人生に状況を起こされます。私たちの益のために、家族の益のためでもあります。神がご自分を求める者には報いてくださる。(ヘブル11：6参照)

第一礼拝で述べたように、夫として、霊的なリーダーシップやその影響性は、私たちが主に従う方法で表れます。これは基本的で、単純な計算ですが、私たちはそれに反抗します。反抗してしまう私たちの邪悪な性質が故に。この主への従順は、主が宣言されたことすべてに関してで、私たちが楽しむことだけではありません。おお、このことでは、良く従いますが、あのことでは、従おうとしません。「それは時間にとられることだし。」「それは他の人が従う事だし。」「神は、私にここでこれとあれ、そして挙手し、賛美させられたいのですよ。」もしそうしているなら、それが問題なのかもしれませんね。敬虔な夫としての使命は一面的なものではありません。それは一面だけではありません。「私は大黒柱なのだし、他はすべて妻が解決すればいいのだ。」おお？ そういうものではありません。少なくとも、私の見たところ四面あります。敬虔な夫は、妻に対して司祭、供給者、保護者、喜びであるべきです。私はこう理解しています。これは、神からの任務で、これを行うことは、神への従順です。私たちは自分の考えから抜け出さねばなりません。そこから抜け出すためにも、私は主に訓練いただくよう祈り続けています。妻を喜ばせようとしな。違います。私は主を喜ばせるためにいて、それが妻を喜ばせるのです。(会衆：アーメン！)

これが私たちがせねばならないことです。私たちがこれをする理由は、私たちがすることが最終的にキリストを表し、この教会が主に捧げるべき応答だからです。それを考えてください。イエス・キリストが、教会の大祭司で、供給者で、保護者で、喜びです。ですから、なぜ私たち教会が、すべてのことを主に従おうとしないのか？これが私たちが切望すべき究極の「一体となる」ということで、結婚という領域で明らかにされます。さっそく本題に入ります。「エペソ人への手紙5章」最初の3節にあります。再度、御言葉をお読みします。

ー エペソ 5：22 ー

妻たちよ。主に従うように、自分の夫に従いなさい。

さて、議論になり得るのは、主の御名によって妻となることは、その夫の苗字を名乗るなど、夫に従う最初の行いの実演だと。あるいは、ガリラヤの習慣のように、女性は自分の父の家を出て、彼女のために用意された夫の父の家に行く事。皆さん、ついてきていますか？それは服従とはなりませんか？私が見るところでは、それはひとつの形です。その従う形は、自分の夫に対してであり、土地のすべての男に対してではないことに注目ください。自分の夫に対してです。悲しいことに、この聖句は、多くの聖句と同様、文脈を無視し、女性が男性の言うことをすべて聞かねばならないかのように乱用されることがあまりにも多いです。「自分の夫に従いなさい」は、土地のすべての男に従うものではありません。ついてきてますか？しかし現実には、この「従う」の理由は23節に説明があります。御言葉は続きます。

ー エペソ 5：23 ー

キリストが教会のかしらであり、ご自分がそのからだの救い主であるように、夫は妻のかしらなのです。

まず最初に、男も女も神の似姿に造られているので、指導的地位は価値と関係ありません。私たちはどちらも神の似姿に造られた、等しい価値のある存在です。ここで語っているのは、神は、夫と妻という私たちの役割に基づいての、物事の秩序を命じられたことです。私たちの神は、もしあなたが知らないとしたら、あらゆる点において秩序があらわれます。神は、無秩序や混乱の観点から物事をもたらすことはありません。私たちクリスチャンは認めたくありませんが、神が定められたこの秩序は変わりません。どうです？ 変わることはありません。(会衆：アーメン！)しかし、その秩序が正しく機能するためには、両方の役割が神の御言葉に従って、行われねばなりません。24節を聞いてください。神は仰います。

— エペソ 5：24 —

教会がキリストに従うように、妻もすべてにおいて夫に従いなさい。

それを考えてください。教会(私たち全員を含む)：キリストに従う、または服従する。

「妻はすべてにおいて自分の夫に従いなさい。」これがわかりますか？ キリストは私たち各々が従うべき模範であり、つまり、夫として私たちがキリストに従うのであれば、そうすれば、妻が神の定めた秩序に従いやすくなるのは当然です。その仕組みがわかりますか？ 私たちが、神の御言葉の下で機能していないと、従うのは難しいです。私たちがそれを難しくしています。「すべてにおいて私に従え。」「私が従いやすいようにしてよ。」主に従ってください。それに尽きます。薬物でイカれた人に従いたいですか？ 私は嫌ですよ。でしょ？ なぜなら、私たちが主の御言葉に従うなら、私たちが主のご方法を学び続け、「一体となる」を続けていく中、主の秩序について意見の相違が生じることはないはずですが、不釣り合いな結婚をされている方にとって、もっと難しくなる理由はこの点にあります。でも、がっかりしないでください。しかし、主が定められたことに従い、神に逆らわない限り従う任務があることを知ってください。不釣り合いな結婚生活をする中では、こう言う時があります。「いや、それはしないわ。」「でも、聖書には従えとあるよね？」「おお、主に対するようにね。(コロサイ3：23参照)あなたのしていることは間違いなく 主に対して行えることではないわね。」それはどちらにも当てはまります。悲しいことに、夫と妻の役割は曖昧で、みんな同じことをしているから、本当は問題ではないと本気で信じるクリスチャンが大勢います。クリスチャンがこれを信じているのですよ。信じてしまいました。「おお、男？女？私たちは全員同じ。男と女はあらゆる点で平等だ。」そういう事例は全くありません。(会衆：アーメン！)このことや他の要因から、多くの女性は何があっても従いません。従いません。彼は神に忠実に従うことができているのに、あなたが彼を支配したいから、従わないのです。敬虔な夫に従う気がないのであれば、神によって定められたあらゆる権威に従う可能性があるでしょうか？教会内で対処したことがあります。まず私や説教壇の後ろに立つ者は、この場でこうは言えません。「これが私がしたかったこと。自力でここにいるのだ。」神が私をここに置かれたのです!!! 神が「あなたは終わりです。」と仰ったら、私は外れます。しかし、神が私をここに置かれる間は、神以外の権威が、この神の教会で横行することはないと信じてください。一拍手— ですから、神の権威に従いたくないのは、あなたの問題です。最終的な判断は神がされます。(会衆：アーメン)

男性も女性も、神の御目から見て同じ価値ですが、神が定められた役割は全く異なります。さらに悲しいことに、自然のほうが人類よりもよく分かっているのです。自然は秩序を理解しています。そうではないですか？ 人間は、何であれ自分の邪悪な心が望むように認識しようとしみます。しかし、自然はその秩序を理解し、ありのままを認識します。でも、私たちはテストすべきです。本当にそうすべきです。そうなんです。自分をライオンと認識した人を私は見てみたいです。OK。いいでしょう。このまま、あなたを

ライオンの群れに加えましょう。ー(笑)ー 一緒に移動してください。あなたは自分をライオンと認識するけど、彼らはあなたを昼食と認識しますから。ー(笑)ー 想像できますか？ 炎天下で2週間何も食わず、寝返りを打って目を覚ますと…。「あれは人間では？」 ー(笑)ー

「8フィートくらい離れたところ？」「シンバよ。起きなさい。これなら走らなくてもいいんじゃない？」 ー(笑)ー リブが食べれるぞ！！」 ー(笑)ー 言いたいことわかりますね？ おお～！

自然はよく分かっています。しかし、神は、最善をご存知です。この「従う」は、私たちがひとつになるための秩序です。「第一コリント人への手紙 11章 3節」に書かれている御言葉を考えます。御言葉をお読みします。

ーIコリント 11:3ー

…すべての男のかしらはキリストであり、女のかしらは男であり、キリストのかしらは神です。

この箇所がわかりますか？「キリストのかしらは神です。」再度、これは秩序で、価値じゃありません。イエス・キリストは御父と一体であられるのに、なぜ神より価値が低いのです？ 私たちは、理由もなく秩序に反抗しています。御父とイエスが一つであられるように、私たちも、この意味でまず互いに一つになり、一体となることによって、同じように御父と一つになるよう努めなければなりません。また、ここ「第一コリント人への手紙 11章」11～12節にも書かれています。御言葉をお読みします。

ーIコリント 11:11ー

とはいえ、主にあっては、女は男なしにあるものではなく、男も女なしにあるものではありません。

ーIコリント 11:12ー

女が男から出たのと同様に、男も女によって生まれるのだからです。しかし、すべては神から出ています。

なぜ、いがみ合うのか？ これらはすべて、設計者であられる真の生ける神による真の知的設計によるものです。私たちがそれを受け入れたら、私たちの人生はどれほど祝福されるでしょう？ 私が確信することは、私たち夫が、神が私たちに任じられたことを真剣に受け止めるのなら、私たちの妻の神的な服従は、順調な変化を遂げるでしょう。順調にです。それは歓迎される変化です。ここからが、肝心なところです。「エペソ人への手紙」5章 25節から 27節です。御言葉をお読みします。

ーエペソ 5:25ー

夫たちよ。キリストが教会を愛し、教会のためにご自分を献げられたように、あなたがたも妻を愛しなさい。

このような愛は、愛であられる神からしか生まれません。悲しいことに、私たちのほとんどがこのことを、一度も教わりませんでした。こんにちの多くの教会でさえ、結婚前の人たちにこれを理解する重要性を教えません。一体どのような聖書的指導をしているのでしょうか。ここでそれをすべきかわかりませんが、言ってしまったので、言いましょう。結婚を希望する人たちに対して、聖書的(婚姻)カウンセリングをある範囲で、一時停止をせざるを得ませんでした。なぜかわかりますか？ 理由は、彼らは聞きません。「私たちに結婚してほしいんですよ。」という態度で、神の御前に立って、こういう流れで、結婚がいかに重大なものかを話すと、あなたは居眠りし、よだれを垂らし、「これを理解できますか？」「はい、はい、はい、はい。」「私にはそう見えませんよ。私の判断では、あなたは真剣に考えていないと思います。なので、他のところで結婚してください。ここではできませんから。」

私たちがこの方法で学ばなかったとしても、よりよく知れば、よりよく行動できます。すでに結婚してい

て、このことを教わっていないければ、再度、私たちが、このことを心に留め、教えるなら大丈夫です。これをするのは止めてください。「わかりません。私たちの何がいけないの？ 私も同じことをしました。私も同じことを経験しました。」と。子どもや孫にも同じ経験をさせたいのは、あなたが同じ経験をしたからですか？ それが何か知っていますか？「靈的怠慢」です。それこそ、責任回避です。あなたと同じ過ちをさせることが家族を愛することだとでも思ってるんですか？ 家族内の友好関係を失いたくないから？ キリストは、教会のために命を捨ててくださいました。夫として私たちは、妻のために命を捨てるのです。これは、妻のために死んでもいいという思いだけではありません。違います。妻のために死ぬこと、それは最終的な行動です。その死が来るまでに、いろいろなことがたくさんあります。イエスを例に説明します。例えば、キリスト：天国を離れ、いのちを捨てるために来られました。主は、仕えられる王としてではなく、しもべの指導者としての役割を担われました。イエスのお働きはすべて御父の御心に従われたのであり、ご自身の意志ではありません。先で大きな苦しみを受けると知りながら、最後まで忠実であり続けられました。これらはたった4つの点です。皆さんは、もっと見つけると思いますが、しかし、この4つをもっと低いレベルで適応し妻や家族への特定の必要を満たすため、夫として私たちが、生活において低い位置に立つ必要があるかもしれないという事実です。私たちは皆、成功の階段を登りたいのです。しかし、もし神が「だめです。」と仰ったらどうです？ 主が模範を示されたように、私たちの働きはすべて、自分の意志ではなく、御父の御心に従うべきです。私たちは、家族を導くことを学ばねばなりません。しもべの指導者の頭となり家族を導くのです。仕えられたい王のようにいきがるのはありません。結婚生活の中には、前途多難なものもあるかもしれませんが、夫として最後まで忠実であることが必要です。すべてキリストに従うため、従順であるため、私たちはそれを学びます。そのことを思いの中心に置くと、すべてが変わります。26節に書かれた主のこの行動を見てください。

— エペソ 5：26 —

キリストがそうされたのは、みことばにより、水の洗いをもって、教会をきよめて聖なるものとするためであり、

教会が整えられ、清められるのは、神の御言葉によってではないですか？ 私たちは、真理によって聖別されるのでは？ 再度、これは私たち夫が妻に対してすべきことです。これが聖書聖句、御言葉にとどまり彼女らに御言葉を与え、他のすべてと連動して御言葉に携わる。ですから、夫として私たちは覚悟を決め、主が導かれるままに、妻のために自分の人生を脇に置く必要があります。神の御言葉と共に妻を聖別する時間を取ることを徹底するのです。家庭の祭司になることについてに戻りますが、特に妻に対しては、主のためにそれが妻を聖別することになるからです。この神のご設計は、妻が子どもを主のご方法で育てる準備でもあります。私たちが神の御言葉に同意すれば、私たちは互いに同意することになります。御言葉が私たちを一体にします。しかし、ここに裏があります。まず私たちが、神の御言葉の中にいなければなりません。私にとって、ここが問題なのです。私たちは自問せねばなりません。私たち夫は、妻に御言葉を伝える努力をどれだけしていますか？ 私たちは妻を導いてるか、それとも他の誰かに導かせるのか？ これは妻に説教することではありません。違います。私たちはとても利己的になるからです。「僕が聖句を選ぶよ。妻よ、ここに来なさい。— (笑) — 僕が、君を導くからね。あなたは___しなさい。」

皆さん、空欄を埋めてください。そうではありません。違います。心から妻を導くことです。それとも、仕事が私たちが世や世のことに没頭するあまり、家庭を聖別する時間を取らない、あるいは作らないと

ということですか？ 奥さん方はどうですか？ 的確にあなたへ導かれた時、御言葉を受け取りますか？ それとも、自分の感情や感覚が真理の御霊より優先しますか？ 感情を持つこと自体が問題ではありません。問題は、その感情に支配され、抑えられなくなった時です。このように感情が邪魔するのに気づくことも、夫の重要な役割のひとつです。それから、優しい答えと繊細なフォローによって、その考えを神の視点に導くのです。それが私たちの妻を導くのです。それがその役割の一部です。あなたは、それをしていますか？ 第一礼拝と結びつく、感情的一体についての対応です。とても重要です。(何かを) 決断する前は どうしますか？ 私たちは、御言葉の知恵を探し求めていますか？ それとも、世の知恵を呼び集めますか？ 私たち夫や妻は、決断する前に聖書を熟考し、祈りと信仰で決断していますか？ それとも、そのことについて主と話さず、22時間かけてリサーチしていますか？ 私たちは、神の事柄についてどれくらいの頻度で話しますか？ さらに、私たちの歩みをより良くされる神の事柄について、どれだけの頻度で話しますか？ どう変えたかわかりますか？ 私たちは、神との歩みの中で、より良くされる神の事柄について、どれくらいの頻度で話しているのでしょうか。私たちはそのことに敏感であるべきです。私がそういうのは、多くの人が聖書を読み、聖句を探し出しますが、でも何のために探しているのか？ 多くの場合、自分の主張を証明するため、あるいはこの逸脱したものを見つけるため、私たちの歩みを良くするためには、何の役にも立たないようなものです。私たちはそんなものに興味ありますか？ これが私たちが「エペソ5章」にいる理由で、これが必要だからです。これが更に重要なのです。

『ネフィリムはどこに行ったのか？』の話題よりも。それをタイトルとしてSNSに載せると、100万人が視聴するのを待っています。しかし「聖書的結婚」と載せると、視聴者1人。つまり私たちは皆、罪悪感があるのです。ユーチューブを検索して、

「今日はとても霊的なものを見ようかな。私は本当に...主よ、それについて、祈ります。主よ、私はあなたを求めています。自分のために何か必要です。私はあなたに近づきたいのです。」

検索始めると、最初に出てくるのが『肉の欲』みたいなタイトル。「ううん。違う。』『人間の罪』『違う、違う。』検索し続けます。神がずっと話しかけられているのに、あなたは、「違う、違う。」という感じですか。『もっといい夫になるには？』『おお、違う。違う。いや、いや、いや、いや。主よ、私は本当に...違う。うーん、御霊が働いておられないな。もっと見てみよう。うむ、うむ、うむ...『失われた契約の箱』？ そう！ はい主よ、『失われた契約の箱』はどこにある？ 見てみたいです。聖書箇所も入っていますし。』

『ネフィリムはどこに行ったのか？』私たちは、問いかける必要があります。「私たちの結婚はどこへ行ったのか？」おお、知っています。ネフィリムがそれを食べました。ネフィリムを見つければ、すべての結婚が見つかると思います。馬鹿げていますが事実ですよ？ 私たちは皆、本当に魂の探索や自分にとって何が必要かの代わりに、ゴミのようなものに引き寄せられます。すべての聖書がそうであるように、神がここに置かれた全てに理由があられます。27節、御言葉は続きます。

—エペソ5：27—

ご自分で、しみや、しわや、そのようなものが何一つない、聖なるもの、傷のないものとなった栄光の教会を、ご自分の前に立たせるためです。

つまり、イエスはご自分の花嫁である教会に御言葉を与えられ、花嫁は誰に献げられますか？ 主ご自身にです。皆さん、私についてきていますか？ 教会がキリストのために栄光となるため、御言葉が教会に提供されます。それを私たちの結婚に重ね合わせてみてください。私の話を聞いているよう願います。額から角が生えているような目で見ている人もいるから。私が見るところ、神の御心通りに御言葉に導か

れ、受け取られるなら、その結果、シミやシワなどのない、最も輝かしい妻が誕生します。はい、私たちは墮落した状態の中で生きています。私たちは完璧ではありません。それは理解します。しかし時間をかけて、その完璧な日まで、私たちはますますより良くなるでしょう。これを理解する必要があります。これは、ただ御言葉を読んだり聞いたりするだけでは達成されません。しかし、常に御言葉であり続け、それを実践する。そしてそのために働きと時間を費やすことです。このことは、ヤコブ書に通じます。みことばを行いなさい。ただ聞くだけの者となつてはいけません。(ヤコブ1：22参照)

御言葉に従って、夫としてXY(男性的)をすれば、それが私がしようとするので、喜んでやるべきことです。御言葉に従って、妻としてXX(女性的)をすれば、それが、あなたがすべきことです。XとYを混同しないでください。おお、今は伝わりませんでしたね。—(笑)—でも、メッセージを聞いていれば大丈夫です。このすべてが素晴らしいのは、私たちがこのすべてを行うと、たとえそれが主からだけの応答であっても、私たちの努力は、その全てが応えられます。皆さん、聞いていますか？ 配偶者の想定される反応を見るのはやめましょう。それが私たちが間違ふところ。「はい、主よ、私はこれを行います。」であなたはそれをします。「しかし、彼女らは何もしませんよ。」「あなたはわたしに従順でした。相手を喜ばせようとする、そこで失敗します。わたしのためではないからです。」主のために、主に行くことで、祝福が訪れます。神が唯一であれば、良いのです。それでよろしいです。

「主よ、ありがとうございます。ええ、彼女は何もしませんが、大丈夫です。私はわかっていますから。わかっていますから。私は大丈夫です。」その逆もしかりです。神こそが、私たちがこの全てを行うためにおられるお方です。神が理由なのは、私たちは神に対して申し開きをせねばならないからです。配偶者ではなく。結婚していない人たちも同様に、このすべてにおける自分の役割について申し開きをすることになります。考え違いしないでください。神は御目に留めておられます。では、28節に入ると、主は、妻への愛を自分の体と結びつけて、その点を指摘なさいます。御言葉を読みます。

— エペソ 5：28 —

同様に夫たちも、自分の妻を自分のからだのように愛さなければなりません。自分の妻を愛する人は自分自身を愛しているのです。

これに入る前に、この節が暗黙に意味するところと、時に見逃されていると思ういくつかの側面を確立しましょう。まず、自分の体としての妻へ示す愛は、「一体となる」です。それを物語っています。「自分の妻を愛する人は自分自身を愛しているのです。」と御言葉が語る時、その表現は、その体をあなたのものように扱うのを期待する事です。私たちは一体であり、あなたのものだからです。私たち男性のために、この自分を愛するという事は、自己愛とは違います。この自分を愛するとは、愛する人、つまり妻を大切にするために自分を大切にすることです。言い換えると、妻を愛していれば、自分の人生を大切にするはずで、それがポイントです。ここハワイでは、体についてのこの節は、ここにいるほぼすべての人に影響を与えるはずで、なぜなら、ハワイほど自分の体に気を遣う人が多い場所はないからです。どこにでもGNCとかサプリの店があり、あちこちにジムがあり、24時間フィットネス、オリンピック競技の子選、パワーリフティング、パレード、あらゆるものがあるでしょ。体への愛情は現実です。良いことです。体のケアは良いのです。相手のためしているのであれば、それで良いのです。それとも、私たちは自己満足のためにしているのか？ その違いがわかりますか？ もし、それが自分たちや自己満足のためだとしたら、それは本当に大きな問題だからです。こんにち、私は強く確信するのですが、私たちは「ナルシスト」という言葉をよく聞くようになりましたね。精神医療の専門では人格障害とされま

す。自分の重要性を非現実的に認識し、他人の気持ちを気にすることがほとんどない人たちを指します。それが「ナルシスト」です。そして「ナルシスト」という言葉は、神話の登場人物「ナルキッソス*」に由来することは、多くの方がご存知です。(*ギリシア神話に登場する美少年)このキャラクターについて様々なストーリーがありますが、要はこうです。

ナルキッソスが生まれたので 彼らは彼を占い師に見せに行った。そして、占い師は言います。「己を知らないままでいれば、長生きできるであろう」と。ナルキッソスは青年に成長し、ある日、森ではしゃいでいると、何かの後をつけてきました。それはニュンペー（ニンフ、森の妖精）で、ニュンペーはナルキッソスに恋をしたが、ナルキッソスはニュンペーを拒絶しました。それを見たのは誰だと思いませんか？ 復讐の女神、アフロディーテタイプです。彼女はナルキッソスを罰したいと思いました。長い一日の狩りの後、ナルキッソスはとても喉が渴きました。彼女は、彼を穏やかな水溜りに誘いました。彼が水を飲もうとしたとき、水に映った自分の姿を見ました。彼は、ひと目で恋に落ち自分から離れられなくなりました。その愛が報われないから、瞬時にナルシスという花になりました。あるひとは彼は自殺したといひます。要するに：言いたいことわかりますね。－（笑）－

それは最高度の自己愛ですね？ しかし私たちは皆、自分自身をチェックし、自分にナルシストの痕跡がないかを確認する必要があります。もし種が植えられたら、本格的なナルシストに開花し、私たちにとって盲点になります。私たちの愛は、無私無欲でなければなりません。私たちが自分のためにするケアは、他の人のためにするものです。このことを踏まえて、29 節、さらに、神の御言葉をお読みします。

－ エペソ 5：29 －

いまだかつて自分の身を憎んだ人はいません。むしろ、それを養い育てます。キリストも教会に対してそのようになさるのです。

これが、先ほど話した「何」の背後にある「理由」です。使徒パウロは、このことを主と結びつけることで、自分への愛を、愛すべき他者への奉仕へ条件づけました。この養い、大切にすること...それを御言葉として受け取るだけではいけません。これは私にとって、聖書を読むとき、いつも主に速度を落としてくださるようお願いする方法のひとつです。そうすると、この御言葉に集中でき、「おお、養い大切にすることでない。」それはわかります。でもよく見ると、その奥にある深い意味を見出し、自分の人生に文脈を当てはめます。その意義を考えてください。私たちがそうするのは、キリスト・イエスが、教会を養い大切にされるからです。この御言葉「養う」という単語を見ると、「育てる」「育てあげる」という意味があります。これは全てを包括します。一体となって養い、育てあげるのです。これは全てを包括します。一体となって養い、育てあげるのです。世話をし、支えること。それは、イエスがこんにちの教会に対してされたことであり、今もされ続けていることではないですか？「cherish/いとしま」という単語があります。単純に warm/温める という意味ですが、意味はそんなに単純ではありません。なぜなら、このタイプの温めるは、授乳中の母親が子どもに対して意図的世話に関連した温かさだからです。それが違いです。授乳中の母親に伴うことを考えてください。想像してください。必要性を知り、その必要性を供給し、そして大切に、癒すこと。それが取り組み方です。

使徒パウロが「第一テサロニケ人への手紙」2 章 7-8 節で語る御言葉と同じです。御言葉をお読みします。

－ Iテサロニケ 2：7 －

あなたがたの間では幼子になりました。私たちは、自分の子どもたちを養い育てる母親のように、

ー Iテサロニケ 2：8 ー

あなたがたをいとおしく思い、神の福音だけではなく、... (聞いてください)

ー Iテサロニケ 2：8 ー

自分自身のいのちまで、喜んであなたがたに与えたいと思っています。あなたがたが私たちの愛する者となったからです。

このことを踏まえて考えると、聖書の中で、これがどのような愛しみを指すのか分かりますか？ 私たちはこういう言葉を日常的に使いますが、本当にその意味の深さを理解しているでしょうか？ こういう温かさを妻に見せているのか、それとも冷たくて黙っているのか？ 私たちは、顎を硬く閉じて、頭を上げて、一番目に留めるべき人を見透かして歩くのですか？ これが起きていて、悲しいです。あなたは自分自身を恥ずべきです。これを私たちがしているなら、みんな恥ずべきです。私たちには設計図(青写真)があるのに、それに従おうとしません。こういう者だった人に神が何をなさるか、私が生きた証拠です。私とあなたは同類です。私はそれがよく分かります。冷たくて、ものを与える事がすべてだと考えていました。「おお、私は一生懸命働いている。おお、私は請求書の支払いしている。君は、こんなことする必要もない。あんなことする必要もない。」

私を見てください。私は何者でもありません。そんな何の意味もありません。神はすでに、私たちは働くようにと仰いました。それは何なのか？ それが私たちの妻への対応です。キリストのように行っていますか？ はい、粉々に私を打ち砕きました。しかし、神は恵みの神です。何が私を変えたかご存知ですか？ それは、真の生ける神の私に対する養い、いとおしさの温もりでした。そして、それは妻のおかげでもあります。私は神の御言葉に従順でありたいのは、これらの行為のすべてを実証するため、妻の反応に関係なくです。では、聖書箇所に戻ります。使徒パウロが体について語る事は、30-32節で頂点に達します。御言葉をお読みします。

ー エペソ 5：30 ー

私たちはキリストのからだ(肉と骨)の部分だからです。

では聞いてください。もう一度。

ー エペソ 5：31 ー

「それゆえ、」...

ついてきてくださいよ。「それゆえ、」...男は父と母を離れ、その妻と結ばれ、ふたりは一体となるのである。

ー エペソ 5：32 ー

この奥義は偉大です。私は、キリストと教会を指して言っているのです。

これがどのように同居するかわかりますか？ これによって、結婚が何を象徴するかわかりますか？ 結婚には、肉体的な結び付きを超えた目的があります。これが、男が父と母を離れ妻と結ばれる究極の理由です。考えてみてください。キリストは妻である教会と結ばれるために御父を離れられました。私たちの結婚は、イエス・キリストと教会の縮図です。ですから、あなたが絶対結婚したくないなら、どうでしょう？ あなたが、教会の一部であるとしたら、とにかく結婚することになるでしょう。そしてあなたは結婚したくなる。結婚とはこうあるべきという愛ある理解を持ち、自分の人生がどのような状況であっても、そのような模範となることで、十分に感謝し、神と一体となった神の栄光を十分に理解し、証しできます。

結婚とは、神の民である私たちが持てる最も親密な関係です。神のもとで結婚し一体となることは、私たちの信仰の実践だと言わせていただきます。神のご設計により、結婚は、結婚が生み出すように意図された如く、愛のあらゆる側面を十分に発揮する唯一の適切な道なのです。以前、ギリシャ語で使われる4つの愛の言葉について話しましたが、それを踏まえて、再度、話します。ほとんどの方がご存知ですね。

「アガペー」は、神から人への無条件の愛、その愛に応える人から神への愛です。

「フィリア」または「フィレオス」は、兄弟愛、または友情においての深い愛です。

「エロス」は肉体的な愛で、夫婦は最初からそれを表わす任務があります。「生めよ。増えよ。(創世記)」最後に、「ストルゲー」です。肉体的な愛の副産物である私たちの子孫は、私たちが自然に愛するように、彼らも自然に私たちが愛します。私たちに似せて造られているからです。神のもとでの結婚生活の中でこそ、これらすべてが正しく発揮されます。これが「一体となる」の構成であり結果でしょう。未婚の人、子どもがいない人が、主において完全な存在になれないのでは決してありません。いいえ、そうは言っていない。しかし再度、その完成度は、神が定められたことを尊重する心によってもたらされます。もしこれを尊重しないなら、あなたにはそれに対しての心がありません。それが問題です。もし私たちがこの目的「一体になる」の重要性がわからないなら、「主と一つの御霊になる」の理解を完全に把握できません。このことを理解できなければ、私たちクリスチャンの成長は妨げられます。なぜ？ なぜなら、心に大きな問題があり、それに対処する必要があります。主は、結婚を最も高く評価されます。結婚が神について明らかにするからです。再度、

「この（結婚の）奥義は偉大です。」(エペソ 5：32)

キリストと教会を明らかにします。私たちの結婚は、キリストの教会への愛には及びません。このような肉体的結婚はいつか終わり、キリストと教会の結婚だけが重要なのを忘れてはなりません。イエスは、「マルコの福音書 12 章 24 節から 25 節」のこの御言葉で表現されます。

イエスは... 復活を信じないサドカイ派に語られました。

— マルコ 12：24 —

イエスは彼らに言われた。「あなたがたは、聖書も神の力も知らないのに、そのために思い違いをしているのではありませんか。」

— マルコ 12：25 —

死人の中からよみがえるときには、人はめとることも嫁ぐこともなく、天の御使いたちのようです。

これで決まりですね。私たちが栄光のうちに引き上げられる時、肉体での結婚はもう問題ではなくなります。私は、家でこんなことを言った人を知っています。「もうジョンとやり取りをしないですむの?」「はい、必要ありません。」— (笑) — 終わりです。結婚の苦悩はすべて無くなります。しかし神は、私たちのためのご設計で、最も親密とされる要素と、それに関わる命令にどのように取り組んだかに基づき、私たちに対処されます間違わないでください。神は御目に留めておられます。なぜなら、ここ(地上)でのことは... 私たちは自分の人生を生きていて、私の意見ですが、時に、神が全てをご覧になっているのを忘れます。神が全てをご存知ないみたいに私たちは人生を生きます。銀行の窓口係は、彼らは一日中、顔のすぐそばでカメラを向けられ座ってお金を数えます。カメラに映っているので、座り直すこともできません。私たちの神はどれほどでしょう? 私たちの結婚の扱い方において、すべてがここでキリストと教会を明らかにします。使徒パウロは、最後に 33 節で締めくくります。御言葉をお読みします。

ー エペソ 5 : 33 ー

それはそれとして、あなたがたもそれぞれ、自分の妻を自分と同じように愛しなさい。妻もまた、自分の夫を敬いなさい。

これは、逃げたと思った魚の釣り直しです。私たちはまだ夫や妻としての責任があります。ただ単に「おお、それはキリストを教会のうちに表すのですね。」と言うだけでは無いのです。そう。でもあなたは縮図です。私たちは皆そうです。私たちはこうして教会のうちにキリストを表現するのです。私たちはまだこれらすべてのために、釣り針にかかっていますか？「そうです。」このすべてがわかりますか？ そう祈ります。このこと全てを踏まえての質問は、教会で結婚が終わることが多いのはなぜか？ 私たちには青写真があって、目の前に全てありますが、クリスチャンではない親しい友人から鋭い質問をされ、つい言ってしまいました。「結婚がうまくいかない理由の第1位は何？」第1位？ もちろん、それを結びつけて言えます。「キリストがその関係の中心におられないからです。」OK。でももっと深く、掘り下げてみんなの心に響くところに行きましょう。最後まで聞いてください。その理由は、「アガペーの愛」ではないから。いいえ、違います。「エロスの愛」だからでもなく、「ストルゲーの愛」だからでもなく、「フィリアの愛」が理由です。それが問題です。それがなくなると、他のすべてが転落します。考えてください。「フィリアの愛」は、私たちの好感度が根付くところです。そこで私たちの友情は、この「フィリアの愛」という要素の上に捉えられ固定されます。ですから、夫婦の仲が悪くなると、好感度も下がります。嫌いな人がいると、その人のそばにいたくありません。その人のそばにいないので、ほとんどコミュニケーションをとりません。そして、その人とコミュニケーションをとらないと、その関係もなくなります。もはや「関係」がないところにはかつての共通という結合はありません。共通の結合がなくなった時、私たちの結婚は終わります。悲しいですが本当です。クリスチャンだと公言する私たちは、いずれにせよ、すべて結婚の一部です。私たちは、この神が定めた人生の託宣を真剣に受け止めましょう。私たちの霊的対応は、私たちの感情的対応を強固にします。私たちの感情的対応は、私たちの設計された身体的反応を動かします。私たちは墮落していますが、直面するすべての悪と闘い続けることで、私たちの結婚は祝福されます。神は大変良いお方だからです。私たちには良い知らせがあります。もう終わります。皆さん、ご忍耐ありがとうございます。良い知らせは、クリスチャンとして、私たちは決して終わることのない結婚の一員です。私たちの結合は共通のまま、離婚する機会はありません。私たちには、イエス・キリストという完璧な夫がおり、そのお方は万物をご自分のもとに従わせ、私たちはその御目に完全な者とされます。私たちは、新天新地で、永遠に神とともに完全な状態で生きるのです。しかし、もしあなたがクリスチャンでないなら、悪魔と婚約していると考えられます。そして、あなたの終焉は、火の池です。それが現実ですが、そうである必要はありませんね？ あなたがすべきことは、主との結婚です。神は私たちとの和解を望んでおられ、それはイエス・キリストの福音によって一瞬で実現できます。

イエス・キリストの福音とは、聖書に書いてある通り、キリストが私たちの罪のために死なれ、葬られ、聖書に書いてある通り、三日目によみがえられたことです。(第一コリント 15 章 1~4 節参照)

救われるのは、ABC くらいシンプルです。

A : 自分が神に背いた罪びとであるのを、Acknowledge/認識する。

私たちは皆、罪びとで、救い主イエス・キリストが必要です。

ローマ人への手紙 3 章 10 節、

「義人(正しい者)はいない。一人もいない。」

ローマ人への手紙 3 章 23 節、

「すべての人は罪を犯して、神の栄光を受けることができず、」

自分たちの意志で、神の御国に入れるほど十分良い人はいません。

ー ローマ人への手紙 6：23 ー

「罪の報酬は死です。しかし神の賜物(贈り物)は私たちの主キリスト・イエスによる永遠の命です。」

それが、A (Acknowledge/認める) です。

B は、B : Believe/信じる。C は、C : Confess/ (口で) 告白する。ローマ人への手紙 10 章 9 節~10 節です。

ー ローマ人への手紙 10：9ー

「あなたの口でイエスは主と告白しあなたの心で神はイエスを死者の中からよみがえらせたと信じるなら、あなたは救われるからです。」

ー ローマ人への手紙 10：10ー

人は心に信じて義と認められ、口で告白して救われるのです。

あなたの心で、何か欠けていたら、それを満たせるのは、キリストだけです。主の御言葉には、具体的にこう書かれています。

ー II ペテロ 3：9 ー

主は、ある人たちが遅れていると思っているように、約束したことを遅らせているのではなく、あなたがたに対して忍耐しておられるのです。だれも滅びることがなく、すべての人が悔い改めに進むことを望んでおられるのです。

私たち全員に救い主が必要です。救い主はキリストです。人類が知る最も素晴らしい結婚の定めから、主の御手を遠ざけたり、主を拒絶しないでください。あなたが主を救い主として受け入れられるよう祈ります。ご起立下さい。祈りましょう。一体になることを主に求め続けましょう。

天のお父様、あなたの真理の御言葉に感謝します。主よ、私たち全員がこのことを心に留めるよう祈ります。私たちの結婚を縫い合わせ、あなたのご介入され、家庭を癒し、必要な修理回復をお願いします。どんなことでもなさってください。そうすれば私たちは、悲しんだり、御霊を悲しませるのではなく、あなたを讃えることができます。主よ、私たちはあなたを敬い、皆、この持ち場で働きが必要です。ですから、聖霊の御力と強さによって、あなただけがおできになるように、私たちを導ってください。私たちはあなたを愛しています。ここからはあなたにお任せします。救世主イエス・キリストの力強い御名によって祈ります。アーメン。

メッセージ by JD Farag 牧師カルバリーチャペルカネオヘ

<http://www.calvarychapelkaneohe.com/>

Calvary Chapel Kaneohe 47-525 Kamehameha Hwy. Kaneohe, Hawaii

筆記 hukuinn7